

達成判定方式について(案)

1. 現状の燃費基準の達成判定方式

現状の目標年度毎の燃費基準の達成判定方式は、表1及び表2の通り。

表1 「乗用自動車のエネルギー消費性能の向上に関するエネルギー消費機器等製造事業者等の判断の基準等(平成25年経済産業省・国土交通省告示第2号)」に定められた燃費基準における各車種の達成判定方式一覧

	乗用自動車	小型バス	路線バス、一般バス
2015年度基準	<u>重量区分別基準方式</u>	<u>重量区分別基準方式</u>	<u>重量区分別基準方式</u>
2020年度基準	<u>企業別平均燃費基準方式(CAFE方式)</u>	<u>企業別平均燃費基準方式(CAFE方式)</u>	

アンダーライン部分:WLTP燃費試験導入時の対象範囲における達成判定方式

表2 「貨物自動車のエネルギー消費性能の向上に関するエネルギー消費機器等製造事業者等の判断の基準等(平成27年経済産業省・国土交通省告示第1号)」に定められた燃費基準における各車種の達成判定方式一覧

	小型貨物自動車 ^{※1}	トラック、トラクタ
2015年度基準	<u>重量区分別基準方式</u>	<u>重量区分別基準方式</u>
2022年度基準	<u>企業別平均燃費基準方式(CAFE方式)</u>	

アンダーライン部分:WLTP燃費試験導入時の対象範囲における達成判定方式

※1 車両総重量3.5トン以下の貨物自動車

重量区分別基準方式^{※2}及び企業別平均燃費基準方式(CAFE方式)^{※3}については、それぞれ以下の観点から達成判定方式に採用されている。

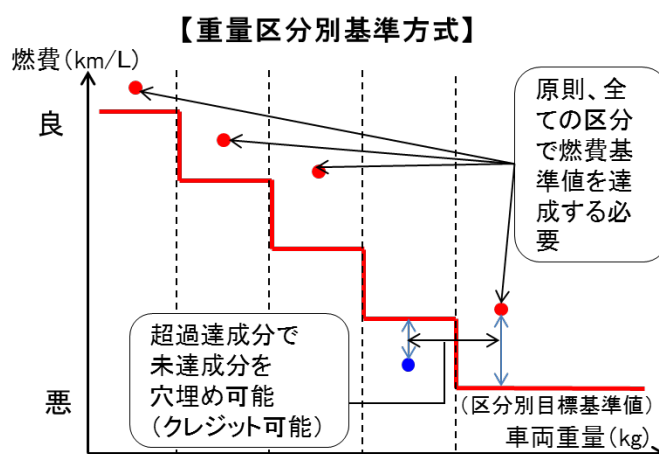
2015年度乗用自動車燃費基準及び貨物自動車燃費基準の達成判定方式は、重量区分別基準方式を採用し、区分毎に基準値を設定している。これは、消費者の自動車利用の用途・目的は様々であり、多種多様な車格の自動車に対するニーズが存在することや、自動車の種類によって採用可能な技術にも差異があること等を踏まえ、あらゆる種類の自動車で燃費改善に向けた最大限の努力を促すためである。

一方、2020年度乗用自動車燃費基準及び2022年度貨物自動車燃費基準の達成判定方式は、企業別平均燃費基準方式(CAFE方式)を採用し、各企業単位におけるトータルでの燃費達成基準値を設定している。これは、メーカーが固有の技術的な特質を生かして、特定の車種や先駆的技術を選択し、これに集中投資を行うことも、燃

費向上を図る上で有効な選択肢として許容することができ、また、メーカーが優位な技術を伸ばすことでそれ以外の領域の技術をカバーすることが可能となり、昨今の燃費改善技術の高度化・多様化にも対応した方式といえる。さらに、CAFE方式では、各企業単位での基準達成・未達成という簡素な評価のみが行われるため、従来の方式以上に消費者からの企業イメージに直結することから、各企業が CAFE 値の向上に積極的に取り組み、全体として燃費改善が進む効果も期待される。

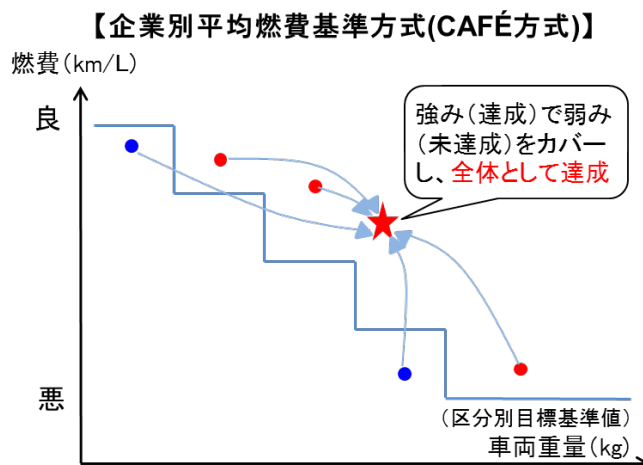
※2 重量区分別基準方式

各々の重量区分での燃費値(加重調和平均)が基準値を達成するよう求める方式。特例として超過達成区分の超過分を未達成区分の未達成分に補填することができるクレジット方式を採用している。



※3 企業別平均燃費基準方式(CAFE方式)

目標年度において製造事業者等の出荷した車両に係る加重調和平均燃費値(CAFE値)が、重量区分毎に設定された燃費目標値を当該製造事業者等の出荷台数実績で加重調和平均したものの(CAFE基準値)に対して、下回らないことを求める方式。



2. WLTP 燃費試験導入時における達成判定方式の考え方

国際基準調和と一貫した燃費規制の実施による継続的な燃費改善に向けた取り組み促進の両立のため、JC08 燃費値により燃費基準の達成判定を行うことを継続することが適当であるという基本的な考え方を踏まえ、WLTP 燃費試験の導入に際し、燃費基準の達成判定方式は、現状の目標年度毎の燃費基準の達成判定方式を踏襲することが適当である。